

旭川工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	機械製作実習 I
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	機械システム工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	機械実習1・機械実習2（嵯峨・中西 監修 実教出版）					
担当教員	岡田 昌樹,技術職員					
到達目標						
1. 安全の留意点と実習の基礎知識・心構えを説明でき、それらを実践できる。 2. 切削加工の基礎実習の手順を説明でき、それらを実践できる。 3. 鋳造・溶接・仕上げの基礎実習の手順を説明でき、それらを実践できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	安全の留意点と実習の基礎知識・心構えを正しく説明でき、それらを模範的に実践できる。		安全の留意点と実習の基礎知識・心構えを説明でき、それらを実践できる。		安全の留意点と実習の基礎知識・心構えを説明できず、それらの実践をできない。	
評価項目2	切削加工の基礎実習の手順を正しく説明でき、それらを模範的に実践できる。		切削加工の基礎実習の手順を説明でき、それらを実践できる。		切削加工の基礎実習の手順を説明できず、それらの実践をできない。	
評価項目3	鋳造・溶接・仕上げの基礎実習の手順を正しく説明でき、それらを模範的に実践できる。		鋳造・溶接・仕上げの基礎実習の手順を説明でき、それらを実践できる。		鋳造・溶接・仕上げの基礎実習の手順を説明できず、それらの実践をできない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 機械システム工学科の教育目標③ 学習・教育到達度目標 本科の教育目標②						
教育方法等						
概要	① ものづくりの意義を認識させ、機械製作への意欲（楽しさ）を養う。 ② 各種工作機械による製作法を体系的に体験学習させ、技術・技能の基礎を身につけさせる。 ③ 自己規律と安全の重要性を認識させるとともに、共同作業のルールから、社会性を育成する。					
授業の進め方・方法	ものづくりとはどのようなものか、各種工作機械、工具、材料を用いた基礎的な機械製作実習から、その体系を学ぶ。実習は、クラスを5班に分け、各班ローテーションで、6項目の実技を習得する。					
注意点	・ 具体的な評価方法（指針や対象）については、初回の授業において開示する。 ・ 習得内容を確認・評価するための詳細な実習報告書を毎回提出すること。（納期厳守） ・ 安全意識を高く持ち、危険予知能力を身につけること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		安全の留意点と実習の基礎知識・心構えが分かる。	
		2週	測定		スケールやノギスなどの測定器の取扱いができる。	
		3週	分解組立		エンジンを分解する中で、各種工具の取扱いができる。	
		4週	分解組立		エンジンを分解する中で、機械の構造が分かる。	
		5週	分解組立		エンジンを組み立てる中で、作業手順が分かる。	
		6週	分解組立		エンジンを組み立てる中で、作業のコツが分かる。	
		7週	計測		マイクロメータ、ハイトゲージ、ダイヤルゲージ、ブロックゲージなど機械製作用測定器の取扱いができる。	
		8週	計測		3次元測定器の取扱いができる。	
	2ndQ	9週	基礎加工		野書きと切断ができる。	
		10週	基礎加工		やすりがけができる。	
		11週	基礎加工		穴あけができる。	
		12週	基礎加工		ねじ切りができる。	
		13週	普通旋盤		機械の構造と基本操作を理解し、外径加工や端面加工ができる。	
		14週	普通旋盤		段付き加工と面取り加工ができる。	
		15週	普通旋盤		溝加工ができる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	普通旋盤		テーパ加工ができる。	
		2週	汎用フライス盤		機械の構造と基本操作を説明できる。	
		3週	汎用フライス盤		六面体の切削加工ができる。	
		4週	汎用フライス盤		直溝削りができる。	
		5週	汎用フライス盤		直溝はめ合わせ削りができる。	
		6週	鋳造		鋳物の作り方、鋳型の要件、構造および種類を説明できる。	
		7週	鋳造		砂型鋳造の鋳込みができる。	
		8週	鋳造		フルモールド鋳造の鋳込みができる。	
	4thQ	9週	鋳造		フルモールド鋳造の鋳込みができる。	
		10週	溶接		ガス溶接に用いるガスの特徴と注意事項を説明できる。	

		11週	溶接	ガス溶接に用いるガスの特徴，設備取扱の方法を説明できる。
		12週	溶接	ガス溶接に用いる設備取扱の方法を説明できる。
		13週	溶接	ガス溶接による接合および切断ができる。
		14週	溶接	ガス溶接による接合および切断ができる。
		15週	溶接	ガス溶接に関する法令について説明できる（ガス溶接学科全体の修了試験あり）。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	機械系分野	工作	鋳物の作り方、鋳型の要件、構造および種類を説明できる。	4	
				鋳物の欠陥について説明できる。	2	
				ガス溶接の接合方法とその特徴、ガスとガス溶接装置、ガス溶接棒とフラックスを説明できる。	4	
				塑性加工の各加工法の特徴を説明できる。	2	
				切削加工の原理、切削工具、工作機械の運動を説明できる。	2	
				バイトの種類と各部の名称、旋盤の種類と構造を説明できる。	2	
				フライスの種類と各部の名称、フライス盤の種類と構造を説明できる。	2	
				ドリルの種類と各部の名称、ボール盤の種類と構造を説明できる。	2	
				切削工具材料の条件と種類を説明できる。	2	
				切削速度、送り量、切込みなどの切削条件を選定できる。	2	
				切削のしくみと切りくずの形態、切削による熱の発生、構成刃先を説明できる。	2	

評価割合

	成果品・実技	レポート	態度	合計
総合評価割合	60	30	10	100
基礎的能力	60	30	10	100
専門的能力	0	0	0	0